



2024年 北海道新聞 新聞切り抜き作品コンテスト

募集要項

主 催	北海道新聞社、道新会連合会	後 援	北海道教育委員会
対 象	北海道在住の中学生・高校生。個人（1人）で制作したもの。		
切り抜き作品 について	切り抜いた新聞記事をテーマに沿って台紙に貼り付け、自分の意見や感想を書いて作品を作ります。 台 紙 A2サイズ以上。作品は縦・横どちらでも可。 使用できる新聞 北海道新聞や全国紙などの一般紙、スポーツ新聞など家庭で購読される新聞。 ※雑誌やインターネット上にある記事や写真、新聞のコピーは使用できません。 webサイトで作品応募キット（このパンフレット+A2サイズの台紙）の 申し込み方法を紹介しています。 https://campaign.hokkaido-np.co.jp/shinbunkirinuki2024/ ※自分で準備した台紙でも応募できます ※A2以上の用紙がない場合には、A3用紙を2枚つなげるなどして使うことができます ※台紙から記事がはみださないように貼り付けてください ※記事を重ねて貼ったり、厚紙を台紙に使うなど立体的な構造にはしないでください		
締 め 切 り	2024年10月31日(必着)		
応 募 方 法	下欄の応募票に必要事項を記入のうえ、作品の裏面右下に貼ってご応募ください。※応募票が足りないときはコピーを使うか、作品の見出し・学校名・学年・お名前・電話番号・自宅住所を作品の裏に書いて応募することもできます		
送 付 先	〒060-8711（住所不要）北海道新聞社販売局 「新聞切り抜き作品コンテスト係」 ※作品は丸めずに、2つ折りや4つ折りにして送ってください		
表 彰	高校生の部、中学生の部 ●優秀賞：それぞれ10作品程度。賞状と記念品を贈ります ●佳作：それぞれ20作品程度。賞状と記念品を贈ります		
応 募 作 品 について	応募作品や応募者のお名前、学校名、学年は北海道新聞紙面や北海道新聞社のホームページに掲載されることがあります。応募作品に関して、著作権（著作権法21条から28条に規定する権利）は北海道新聞社に属するものとし、応募者は著作権人格権（同法18条から20条に規定する権利）を行使しないものとします。また、紙面掲載などの際には、お名前は原則として北海道新聞の新聞用語ルールによる漢字で表記させていただきます。応募作品は原則としてお返ししません。 中学生の部の優秀賞から選抜された作品は、NPO法人「北海道中学校文化連盟」を通じて、2025年8月に行われる「全国中学校総合文化祭」に出品される予定です。		
お問い合わせ	北海道新聞社販売局 戦略チーム TEL 011-210-5700(平日10:00～17:00)		
個 人 情 報 について	●本企画の応募の際にお預かりしました個人情報は、北海道新聞社が取得して適切に管理し、賞状や記念品のお届け、新聞などの各種サービスのご案内などに利用します。また、新聞などの各種サービスのご案内などに利用する目的で、お住まいの地域を担当する道新販売所に提供させていただきます。●北海道新聞社は、お預かりした個人情報を適切な時期に消去し、道新販売所はおお客様の個人情報を厳重に管理します		

応 募 票

※応募票を切り取るかコピーしてご使用ください。
全ての欄をご記入の上、作品の裏面右下に添付してください。

作品の見出し			
学 校 名	中 学 校 高等学校	〒	-
学 年	年 生	自 宅 住 所	
ふ り が な		※記念品などの送付に使用しますので校番、号室名までご記入ください。	
名 前			
電 話 番 号	-	受 付 コ ー ド	
		※北海道新聞社記入欄	



社会に対する「興味・関心」を育み、
「情報を編集する力」が身につく！

2024

北海道の中学生・高校生対象

北海道新聞 新聞切り抜き作品 コンテスト



応募締切

2024年10月31日(木)

あなたの気になるニュースで、
新聞切り抜き作品を作ってみよう！



作品募集中！

優秀賞・佳作に
記念品を
プレゼント！

主催：北海道新聞社、道新会連合会
後援：北海道教育委員会

北海道新聞社

『新聞切り抜き作品』にチャレンジしてみよう！

作品の見出し

忘れないで！

応募票を
作品の裏に貼って
応募してください。

図やイラストも
書いてみよう

見る人が分かりやすいよう
ていねいに書こう。

作り方ポイント②



取り組み方法

STEP1

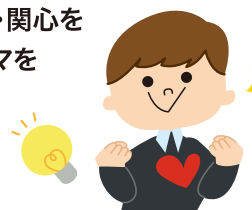
幅広いジャンルの新聞記事を
切り抜いて収集する。

スポーツ 政治 国際
社会 経済 暮らし

ポイント 記事をたくさん集めてみよう。
コラムや投書欄・広告もOK

STEP2

収集した記事の中から
自分が興味・関心を
持ったテーマを
決める。



STEP3

テーマに沿った
新聞記事を
ピックアップする。



STEP4

台紙(A2サイズ以上)に
全体の構成(レイアウト)を
考えながら
貼り付ける。

ポイント 貼る前に、台紙に記事を置き
全体のバランスを確認しよう

STEP5

切り抜いた作品の見出し
(タイトル)を決めて
台紙に記入する。

ポイント 見出しは10文字程度、
ヨコ書きでもタテ書きでもOK

STEP6

切り抜いた記事への
意見・感想や全体の
まとめを台紙に
記入する。

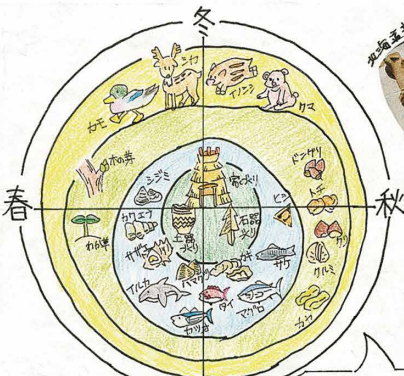
ポイント 貼り付けた記事一つ一つにも
意見や感想を書いてみよう

「今」と繋がる縄文文化

～縄文時代と現代の共通点とは～

そもそも縄文時代、どんな時代？

縄文時代 旧石器時代に続く、今から約1万5千年～2400年前の日本の歴史区分。当時作られた土器に縄目の文様がつけられていることが「縄文」の由来。古くから草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6時期に区分される。日本列島はドングリやクリなどの森が広がり、人々は主に採集・漁労・狩猟によって暮らしを営んだ。土器の発明で食べ物の煮炊きや保存が可能になり、食料が豊富になった。定住が進み大きな集落(ムラ)が生まれ、地域間の交流も盛んに行われた。各地で環状土器や土偶、土埴輪などの土器が作られ、豊かな精神世界を持っていたことがうかがわれる。本州ではその後、弥生時代に移行したが、北海道では縄文を受け継ぐ縄文時代へと続いた。縄文時代を巡っては北海道と東北3県の17道庁で構成する「北海道・東北3県の縄文道庁群」が2021年、世界文化遺産に登録された。



季節ごとの縄文人が
採集していた食料

縄文時代の区分

草創期	紀元前約1万3000年～(約1万5000年前～)
早期	紀元前約9000年～(約1万1000年前～)
前期	紀元前約5000年～(約7000年前～)
中期	紀元前約3000年～(約5000年前～)
後期	紀元前約2000年～(約4000年前～)
晩期	紀元前約1000年～約400年(約3000年前～約2400年前)

北海道新聞 令和5年7月22日

縄文人の服装



遺跡から発見された布の断片から、縄文人は麻を捻って編んだ衣服を着用していたと考えられる。その形は貫頭衣が基本。また、土偶から音段着とは別にハレ着が存在し、文様が縫い込まれたハレ着を着て、赤い顔料で顔に文様を描くなど、化粧を施す習慣もあったようだ。耳かざりとうで輪はほとんどが女性がつけ、男性はヒスイやシカの角で作った腰かざりもつけた。縄文人は耳、腕、髪、足のかざりなど様々なアクセサリーをつけていて、今の人が使っているアクセサリーは全て縄文時代にそろっている。



髪を結い上げ、動物の骨などで髪留めにしていたといわれる。成人の儀式として歯を抜く・削る習慣があった。ヒスイ・シカの角で作った腰かざり。動物の皮でつくられたくつ。裸足で過ごすことも多かった。普段は素朴な素材の服を着ていた。

独特な
土器たち



どの新聞に載っていたか、
載った日も書いてみよう

※ 阿部さん

道縄文世界遺産推進室の
阿部千春特別研究員の方。

SDGs考える機会に

北海道新聞 令和5年7月22日
現代の社会問題と縄文時代の共通点を探る。縄文時代の生活様式は、自然と調和し、持続可能な社会の模範となる。SDGsの観点から、縄文時代の生活様式を現代に活かすことが、持続可能な社会の実現につながる。

身の回りにあるもの
を当たり前にあると思
はず、感謝の気持ちで
忘れずに、改めて大切に
しようと思った。

まとめ～

今から1万5千年～2400年前という、現代からは程遠い昔の時代の人々の生活・文化は、今の私たちに何の関係もないと思っていたけど、アクセサリーをつけてオシャレを楽しんだり、家族への愛情を持ち、ていねいに私たちが同じ心情や感覚を持っていることが分かった。縄文時代の文化を少し身近に感じることができた。また、北海道にも縄文時代の遺跡があることや、アイヌ文化とつながりがあることを初めて知って、北海道民として縄文時代のことにもっと関心を持つようになった。

読んでもらいたい
記事を目立たせよう

記事をマーカーで囲うなど
より記事が目立つように工夫しよう。

必ず自分の考えを
まとめよう

テーマを選んだ理由や
まとめの意見を書こう！
見出しにつながる内容にしよう。

作り方ポイント③

2023 新聞切り抜き作品コンテスト
優秀賞作品